

# 職人さん。

いの町のまちで会いましょう

第5話

2020.11月号

## 相談できる場所を、受け継いで。

まつだ ちよ  
薬剤師 松田知世さん



プロフィール：薬剤師。城西国際大学薬学部卒。関東で薬剤師として企業に勤務後、Uターンして家業に参加、承継の予定。松田薬局3姉妹の次女。



特徴のある香りにこだわって自然薬をそろえています。

光正さんが開発した「通絡水」は痛みと自律神経系の不調に働きます。

時代とともに変わりゆく街のなかで、前を通るたびにほっとするたたずまい。お店の中は、いわゆる薬の臭いもしなくて、清浄な「氣」が巡っているような雰囲気です。松田薬局は昭和20年、終戦直後に開店し、当時は蔵造りでした。平成後期に改築しましたが、「お客さまの体調が良くなって幸せになっていただけるように」との motto は変わりません。

白衣がよく似合う松田知世さんは、祖父母の代から始まった漢方薬局の三代目となるべく、薬剤師の両親が営むお店で修業中。父の光正さんはニックネームが「ベーターベン」、母の敦子さんは誕生数秘カウンセラーの資格を持つなど、ポジティブで個性的なご両親のもとに、3姉妹の次女として生まれました。

「うちは見えないものを売っているから、宣伝しにくいですね」と、ベーターベンに魂レベルで似ている光正さん。お話を聞くなかで、薬を出すだけでは足りないお仕事だと納得できました。隣で観音さまのように微笑む敦子さんには、弱った体や気持ちを楽しんでくれる慈悲のオーラを感じます。

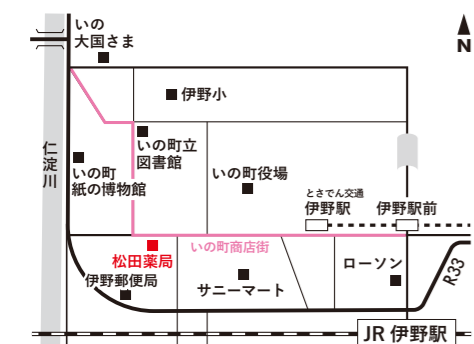


調剤している知世さん。牛の胆石から作る薬もあれば、子どもが飲みやすい甘い薬もあります。

店内にはさまざまな生薬が並ぶ調剤室があり、これは当然として、妹さんの施術するネイルサロンのスペースもあれば、パウーストーンのコーナーがあったり、体操などをする和室に酸素カプセルまであるのには驚かされます。ちなみに、体操するのはダイエットの前段階として、体の歪みを直すためだそうです。

「そろそろ帰ってこない？」と両親に言われ、知世さんが帰ってきたのは5年ほど前。知世さんは千葉県の大学を卒業後、ドラッグチェーンを持つ東京の企業などで薬剤師として勤務。転職も多かったのですが、「まだまだ勉強ですが、引越しのキャリアは積んでいます」とお茶目に微笑みます。仕事の手応えは、「最終的には父のように相談がしっかりできるようになりたいです。」

独身の知世さんにとって、ご両親のような人生のパートナーを探すことも目標です。子どもの頃は薬局へ出入りするのは禁じられていたそうですが、ご両親の思いはしっかり受け継いでいます。こうして娘が跡継ぎになってくれたことについて母の敦子さんは、「娘は性格が主人に似ているん



松田薬局 (株式会社ヘルシーランド)  
いの町 3806  
営業 / 9:00 ~ 19:00  
定休日 / 日曜・祝日・  
第2日曜の翌日・年末年始  
TEL / 088-892-1232



です。まあ、商売をしていると大変な時もありますよね。そういう時も、こんなことがあったけど良かったねお父さん、って子どもたちの前では言うようにしてきました」としみじみ。

知世さんも担当するダイエット相談。「健康を基本にダイエットしてきれいになっていただくのがモットー、とお話しています。ダイエットが目的でも、初めてのカウンセリングは時間を要します。食生活やストレスなど広範囲に聞き取りをして、栄養指導も含めてその人の状態に応じたメニューを組むためです。相談は予約制で、プライバシーを守る個室もご用意しています。」

松田薬局は院外処方を受け入れはむしろ少なく、独自のメニューと処方ができるストレスも減らせるという、いの町の街のよろず相談窓口なのでした。美容と健康、とくれば女性の悩みが多そうですが、こういう場所がある街を奥深いなあと感じさせられます。